

第2期伊那地域定住自立圏共生ビジョンにおける連携事業について【新規・終了】

①政策分野	②想定される事業内容			
	事業名	事業概要	期待される効果	具体的な内容
(新規)	福祉	在宅医療・介護連携推進事業の研究	圏域内の在宅医療・介護に関わる多職種連携およびICT化を推進を検討する。 ICT化を推進することで、医療と介護の連携が推進され、医療に係る社会資源が不足しているこの地域でも安心して医療と介護を受けることができるようになる。医療と介護が安心して受けられる地域は住みやすい地域となり、定住につながる。	○ICT化を進めるためにシステムの導入、運用を行う ○伊那中央病院と各市町村医師会との連携を行う。
(新規)	地域公共交通	支え合い買物サービス「ゆうあいマーケット」	交通網の弱体化とともに、日常の食料品等の買い物が困難な状況な、いわゆる買物弱者に対して、ドローンや軽自動車による「空と陸からのツープラトン型輸送フロー」を構築する。 ドローン物流やケーブルテレビ網によるICT技術と、地域の支え合いネットワークの融合により、商品の調達から、紹介、受発注、配送、決済までの一連のサプライチェーンが構築され、買物弱者の多い中山間地域を中心とした荷物配送と、買い物支援が期待される。 まず中心市において基礎調査及び実証運航を実施し、成果を連携町村に横展開することによって、中山間地等の交通網の弱体化した地域においての利便性の高い持続可能な買い物支え合いシステム構築が可能となる。	○導入に向けた事業計画、初期投資及び運行の実施 ○事業者との調整 ○地域住民への周知及び利用促進 ○連携町村における事業展開への協力
(新規)	地域公共交通	医師が乗らない移動診療車「モバイルクリニック」	医師や医療機関の偏在により医療資源の乏しい地域に対し、特に高齢者に多い慢性疾患患者に対して移動診療車によるオンライン診療を実施する。 医師の負担軽減をはかるため、車両には看護師等が乗車する。医師の指示によりオンライン診療補助を行うことで診療の質を確保しながら、医療MaaS（次世代交通運行システム）により、移動診療車を複数の医療機関で共有運行することにより、運行コストを抑えながら運行が可能である。「通院医療」「在宅医療」に続く第3の地域医療の型として期待される。	○医師会・薬剤師会等の協力によるオンライン診療・オンライン服薬指導等による共同運行
(終了)	地域公共交通	中心市における市街地循環バスの内回り便の運行	中心市の市街地活性化及び圏域内の移動・交流の活性化のため、中心市の市街地循環バス路線の内回り便を追加運行する。 行政区域間縦断路線バスと接続する中心市の市街地循環バスの利便性を向上させることにより、中心市や連携町村の住民の圏域内における移動・交流が活性化し、人的交流の促進、商業の活性化、一体感の醸成等が期待できる。	○市街地循環バス内回り便の運行